

乙 第 号

山本 聡 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	乙 第 号	氏 名	山本 聡
論文審査担当者	委員長	教授	今村 知明
	委員	准教授	朴木 寛弥
	委員 (指導教員)	教授	田中 康仁

主論文

Adolescent scoliosis screening in Nara City schools:

A 23-year retrospective cross-sectional study

(和訳)

奈良市における思春期側弯症学校検診:23年間の後ろ向き横断研究

Satoshi Yamamoto, Hideki Shigematsu, Fumihiko Kadono,

Yukihiro Tanaka, Masataka tatematsu, Akinori Okuda

Eiichirou Iwata, Munehisa Koizumi, Yasuhito Tanaka

Asian Spine Journal 第9巻 3号 407-415頁.

2015年6月発行

論文審査の要旨

思春期側弯症は進行すれば美容的な問題だけでなく心肺機能障害などの合併症を引き起こし生命に危険を及ぼすこともある。そのために側弯症検診は法的に義務付けられているが、その運用の方法は自治体によりさまざまである。これまでに一つの地方自治体で全例モアレ法を用いた検診を行い、その23年間の長期にわたる結果を調査した報告はこれまで見られない。後ろ向き研究であるが、長期にわたる報告であるため調査期間内の比較が可能で、経時的な変化をとらえることができている。その結果、近年における女子の有病率の増加など新しい知見も得られた。奈良市の側弯症の有病率の低さや検診における偽陽性率の高さ、そしてモアレ法の経費の高さなどの問題点を指摘し、また感度・特異度、費用対効果が不明であるなど検診の課題も明らかにした。

今後これらの問題を解決していくことにより側弯検診の改善に貢献し、さらには側弯症の治療効果を高める可能性があると考えられ、その道筋を与えたという点で今後の側弯症治療に寄与する有意義な調査研究と評価でき、博士(医学)の学位に値すると考える。

参 考 論 文

1. 奈良市における脊柱検診20年間の報告 ―モアレ検査を一次検診に活用して―
門野文彦、谷掛駿介、田中幸博、竹田斌郎、森田隆一、西尾功、
山本 聡、立松昌隆
第42回全国学校保健・学校医大会誌 4-8, 2011
2. 軸椎歯突起後方偽腫瘍に環椎椎弓切除を行った1例
岩田栄一郎、山本 聡、竹嶋俊近、藤間保晶、飯田 仁、佐本憲宏
整形外科 60:224-227, 2009
3. MR Iで砂時計腫様所見を呈した腰椎椎間板ヘルニアの1例
岩田栄一郎、竹嶋俊近、山本 聡、藤間保晶、飯田 仁
臨床整形外科 43:1147-1151, 2008
4. 中心性巨大腰椎椎間板ヘルニアに富田式threadwire sawを用いて還納式椎弓切除術を行った2例
岩田栄一郎、竹嶋俊近、山本 聡、藤間保晶、飯田 仁
整形外科 58:783-786, 2007
5. 頸椎硬膜内ganglion cystの1例
大島卓也、植田百合人、竹嶋俊近、小泉宗久、重松英樹、佐藤誠久、
松森裕昭、山本 聡、高倉義典
臨床整形外科 44:309-314, 2009
6. 頸部脊柱管拡大術における椎弓ceramic spacerの使用経験 ―A-W glassceramic

とHydroxyapatiteとの比較—

山本 聡、西山茂晴、亀田光二、竹嶋俊近、広岡靖隆

中部日本整形外科災害外科学会雑誌 37:1291-1292, 1994

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに整形外科学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 28 年 3 月 8 日

学位審査委員長

健康政策医学

教授 今村 知明

学位審査委員

運動器再建医学

准教授 朴木 寛弥

学位審査委員(指導教員)

運動器再建医学

教授 田中 康仁